

Design for Life

地域が変わるものづくり

「シリーズ:適正技術 Design for Life」では、国内外での社会貢献、ものづくり、ビジネスの領域をつなぐ「適正技術」について、ワークショップや実践を通じて考えていきます。

日時: 2015年7月9日(木) 18:00~19:30

場所: 大阪大学ステューデント・コモンズ 1階
カルチエ・ミルチラング(豊中キャンパス)
(http://www.celas.osaka-u.ac.jp/s_c/room)

『途上国開発とデジタルものづくり』

ゲスト講師: FabLab Bohol(フィリピン) ディレクター 徳島 泰

徳島 泰 FabLab Bohol(フィリピン) ディレクター / 慶應義塾大学

大学在籍時にビジュアルデザインとIT技術を学びつつ、IT系ベンチャー企業に勤務。2004年に個人事業を立ち上げ、WEBデザイナー兼SEを務める。2007年にプロダクトデザイナーを目指して大学に再入学。2009年より医療機器メーカーのインハウスデザイナーとして、医療機器のプロダクトデザインやGUIデザインなどを担当。2012年よりJICAの青年海外協力隊(産業デザイン)としてフィリピン国貿易産業省に派遣され、デザインディレクターとして現地に「ファブラボ・ボホール」を設立。「デジタルファブリケーション×途上国開発」をテーマに研究と実践に取り組む。

参加対象

大阪大学学生(学部学生・大学院学生) /
大阪大学教職員 / その他の大学学生、一般
(とくに「地域が変わるものづくり」の実践に関心がある方)
・定員: 40人
・参加: 無料、事前申し込み要

申込方法

下記のとおりメールにてお願いいたします。
・件名: 「7/9ワークショップ参加」
・本文: 1) お名前、 2) ご所属
・宛先: stips-info@cscd.osaka-u.ac.jp
(★を@に置き換えてお送りください)

今日、途上国における課題解決のためのツールの一つとして、デジタルファブリケーションやファブラボ(Fab Lab: Fabrication Laboratory)の活用が目目されています。

ファブラボとは、市民が自由に3Dプリンターやレーザーカッターなどのデジタルとアナログの工作機械を使って、「almost anything」を作ることを目指した工房のことです。

本ワークショップでは、JICAの青年海外協力隊員時に、フィリピンにおいて「ファブラボ・ボホール」を設立された徳島泰さんをゲストに迎え、途上国開発に向けたデジタルファブリケーション技術の活用のあり方や、今後の展望についてお話いただきます。